活動報告書

2023 年 7 月～2024 年 6 月

JMoF 実行委員会

1．活動の成果

2024 年 1 月 5 日（金）～7 日（日）、3 日間の会期で JMoF 2024 を開催した。昨年度の 4 日間から 1 日短縮したのは、会場費支出と参加費収入のバランスやスタッフの人的労働力等を勘案したことによるものだが、結果的に参加者数は 1949 人と過去最高を記録した。「AYAKASHI」参加枠で当初の予定よりも多くの参加者を受け入れたこともあり、豊橋総合動植物公園（のんほいパーク）への寄付額は 3,290,150 円と、こちらも過去最高の金額となった。

その一方で、1 月 6 日（土）に会場への爆破予告および一部参加者への殺害予告が発生した。このため、予定していたプログラムの一部を変更するとともに翌日の会場警備を強化する措置をとることとなった。本件についてはロワジールホテル豊橋との協議を経て豊橋警察署に被害届を提出した。なお、後日被疑者が検挙された旨の報告を受けている。

このような不測の事態が発生したものの、イラストレーター・村山 竜大（むらやま りょうた）氏のゲストオブオナー招致、公募企画の大幅な増加などにより、JMoF 2024 は盛況のうちに終了した。

また、VR JMoF Prologue 2024 を 2023 年 11 月 19 日（日）に、VR JMoF 2024 を JMoF 2024 と同日の 1 月 5 日（金）～7 日（日）に、ともに VRChat と Resonite をプラットフォームとして開催した。2020 年に公開された VRChat の VR JMoF ワールドの総訪問回数（Visits）は、公開以来の約 3 年半で延べ 2 万回に到達している。

年度全体を通しては、JMoF 2024 の参加費収入が想定より大きく、本年度は収入が支出を上回る結果となった。

2. 財産および損益の状況

（1）貸借対照表

貸借対照表			
流動資産	18,267,651	流動負債	2,593,400
		純資産	15,674,251
資産合計	18,267,651	負債・純資産合計	18,267,651

（2）損益計算書

損益計算書		
売上高		35,225,476
売上原価・販管費及び一般管理費		18,448,185
	営業利益金額	6,838,192
営業外収益		100,126
	経常利益金額	6,938,318
	税引前当期純利益金額	6,938,318
	法人税、住民税及び事業税	1,526,700
	当期純利益金額	5,411,618

3.今後の方針

新型コロナウイルス感染症の流行による実世界での活動制限がおおむね解除されたことにより、ケモノ／ファーリー文化にかかわる活動は感染症流行以前の水準を上回るまでに回復しているとみられる。国内各地で多数のイベントが開催されているのはもちろん、世界各地でイベントやコンベンションの参加者数が過去最高の水準を記録しており、東アジアに限っても複数のファーリーコンベンションが 1,000〜2,000 人規模の参加者を集めるようになっている。JMoF の参加者数も今後一段と増加することが想定され、多数の人員を安全に収容およびコントロールする必要性が高まっている。必要な知見やノウハウの蓄積を急ぐとともに、人的リソースの確保にあたっては部分的な警備の外部委託、さらには会場の見直しなども含め、必要に応じてあらゆる手段を検討してゆく。

他方、参加者数の増加は持続的なイベントの開催という観点からは好材料である。特筆すべきは、人数の増加がここ数年のケモノ文化の新しい発展に支えられているように見受けられることである。配信活動、VR や 3DCG、新たなクリエイター向けプラットフォームなど、コロナ禍の期間を経て活発化した活動は少なくない。こうした新たな活動に従事する参加者が増加していることを念頭に置きつつ、多様な活動の受け皿となることのできるコンベンションの母体たるべく、諸資材価格、外部人件費の高騰などの逆風下ではあるが、安定した開催環境の維持を目的とした積極的な支出を行う。収支全体に関しても、適切な参加費収入とのバランスを勘案しながら、継続的な見直しを行ってゆく。

翻って、イベント数の増加は、JMoF や VR JMoF が独自の価値を持ち続けることができるかという問いを当会に投げかけるものでもある。当会は実会場でのコンベンションと VR コンベンションの双方を継続的に実施している数少ない団体であるが、多様な参加者層を抱えていることを強みとして活かしつつ、コンベンションの運営を通じてケモノ文化の発展に貢献することを今後も目指してゆく。

以上